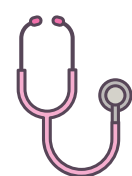


③教育について

最近、私が特に力を入れているのが「スタッフの教育」です。県立三好病院は“四国の中心”、いわゆる「四国のへそ」に位置しており、他県から見てもアクセスの良い場所にあります。この地の利を活かし、スタッフを中心としたさまざまなセミナーを開催し始めました。

2025年には、手術室の看護師を対象としたセミナーを4回開催し、三好病院だけでなく、県立中央病院や鳴門病院のスタッフにも参加していただきました。また、リハビリテーションスタッフ向けのセミナーも実施し、高知県・愛媛県を含めた広い地域から、平日の夜にもかかわらず70～80名もの方が参加してくださいました。さらに、三好市医師会が運営する准看護学院でも授業を担当させていただき、地域全体の医療人材育成に少しでも貢献できればと考えています。

このように、県立三好病院が「四国のへそ」という地の利を生かして、徳島県だけでなく四国全体の医療の要（かなめ）として発展していければと願っています。そのためにも、今後もこうした活動を継続し、地域医療の向上に力を尽くしてまいります。皆さまの温かいご理解とご支援を、心よりお願い申し上げます。



ふれあい看護体験 2025



病棟では、実際に看護師や患者さんとふれあい、足浴やバイタルサイン測定、車椅子移乗を行い、なりたい看護師の夢に一步近づいた体験となりました。

夏休み中の8月7日の午後、池田高等学校辻校生5名が「ふれあい看護体験」に参加してくれました。初めて聴診器にふれ、高校生どうしで血圧を測定や、模擬で注射器に薬液を引く練習をしました。

初めての注射器や注射針に、おそろおそろ手をのばし、真剣な表情で取り組みました。



ドキドキ...

～県立三好病院基本理念～

『誠実』で『信頼』される病院となる

臨時看護師・看護アシスタント募集

随時募集しています。詳しくは当院ホームページをご覧ください。
<https://tph.pref.tokushima.lg.jp/miyoshi/>

ご意見・ご要望がございましたら、ホームページ、または院内ご意見箱までお願いします。
 広報バックナンバーは、ホームページ <https://tph.pref.tokushima.lg.jp/miyoshi/> にてご覧になれます。

令和8年3月発行

今号の内容

- ◆オープンホスピタル
- ◆高度先進関節脊椎センターの活動について
- ◆ふれあい看護体験2025





令和7年8月2日(土曜日)オープンホスピタルを開催しました。三好市、東みよし町の4小学4年生から6年生までの元気な児童が32名参加して下さいました。

まず、病院内で働く各専門職についての動画を視聴した後、6グループに分かれて体験ツアーに出発しました。ツアーの一部を紹介します。



リハビリテーション科では、片手での風船バレー、車椅子・歩行器を使用しての移動に挑戦しました。



医師・看護師体験では、手術室の体験を行いました。手袋の装着、術衣を着て、内視鏡的な手術の体験を行いました。

他に、薬局では薬包紙の包み方、放射線科では撮影したものを当てるクイズ、撮影した写真での診断、撮影機材などについて説明を受けました。臨床検査科では、モデル人形を用いての採血、顕微鏡での赤血球の観察を体験しました。



最後にすだちくんと写真を撮り、病院長より「三好病院サポーター任命書」をいただきました。



このオープンホスピタルは、「地域の子供たちが将来医療人として未来の地域医療の担い手になるための契機とする」目的で開催しています。参加した児童からは、「看護師の給料はどれくらいですか？」など具体的な質問もありました。また保護者からは、「医療とは全く関係ない職業を考えていた子どもが、『薬剤師を目指したい』と話してくれた」との感想を寄せて下さいました。



開催時期などについてのご意見もいただいております。今後さらに充実したオープンホスピタルが開催できますよう、職員一同で取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

高度先進関節脊椎センターの活動について

徳島県寄附講座

徳島大学高度先進整形外科診療部 特任教授

酒井 紀典



徳島県には現在3つの県立病院(中央病院・三好病院・海部病院)と1つの設立病院(鳴門病院)があります。私は徳島大学病院に勤務していますが、県内の医療を支えるため、これらの病院をサポートする役割も担っています。大学病院というのは『診療・研究・教育』の3つの大きな使命があります。これらの3つを県民の皆さまへ還元するという思いから、週に3回(火・水・木)、県立三好病院で診療しています。また、私の部下である松村肇彦特任助教は、県立中央病院と県立海部病院の診療を担当し、地域医療の支援に力を尽くしています。

①診療について

私は脊椎・脊髄を専門とする医師で、県立三好病院では年間およそ200件の手術を行っています。

以前は年間数件ほどだったと聞いており、現在はその100倍近い件数になっています。

私が赴任した当初は、手術用の器械だけでなく手術台も十分にそろっておらず、スタッフも脊椎手術の経験がほとんどない状況でした。それでも、多くの方々の協力と努力のおかげで、大きな事故もなく、安全に手術を続けることができています。

また、私は特に「子どもの脊椎疾患」をライフワークとして診療していることから、県外からの紹介も多くいただいています。

これまで四国以外にも、ドイツや九州、中国地方、近畿地方など、さまざまな地域から患者さんに来ていただき、診療を行ってきました。



②研究について

私が所属する徳島大学整形外科からの強力な支援により、三好病院では最先端の治療機器を導入しています。脊椎・脊髄の手術では、局所麻酔で行う内視鏡手術を取り入れており、人工関節の手術ではロボット支援手術を行っています。いずれも日本でもトップクラスの高度な医療で、患者さんの体への負担が少なく、安全性の高い治療が可能になっています。また、これらの最先端治療を活かしながら、若い医師を中心に、全国の学会での発表や論文作成にも積極的に取り組んでいます。地域医療に貢献するとともに、学術的な活動を通して医療の質をさらに高められるよう努めています。

